

基本的な論点

1 国際政策学部のミッションを変更すべきか？

(現在のミッション)

・グローバルな視点に立って地域社会の問題を考え、地域の自然、文化、産業を豊かにして地域の活力をつくる人材①、アジアをはじめとする世界各国と地域社会をつなぎ、平和で豊かな国際社会の形成に貢献できる人材②を育成する(山梨県立大学学則3条2項1号)。

2 学生を(主に)山梨県から集め、(主に)山梨県へ送り出すことを目指すべきか？

・公立大学の中にも、全国から学生を集め、全国へ送り出している大学がある(都留文科大学など)。

3 工学系新学科の設置に伴い、学生定員を増やすべきか、あるいは、既存の文科系学科の定員を減らし、学部全体では現行の定員(80名)を維持すべきか？

(現行の定員)

1学年 80名(総合政策学科 40名、国際コミュニケーション学科 40名)

(考え方)

- ・今後の18歳人口の減少を考えると、定員を増やすべきでない。
- ・現在、県外の私大(理系)へ流出している学生を県内に留めるため、定員を増やすべき。

4 既存の文科系学科と工学系新学科に共通するコンセプトをどのように設定するか？

(考え方)

- ・現在の課題に対する解の一つとして試行的に実施している「創発デザインコース」のコンセプトを学部全体のコンセプトとすべきか。

①デザイン思考、②文理融合型プログラム、③実践的な教育(地域課題PBLなど)、④実用的な英語教育

5 工学系新学科のコンセプトは？

(論点)

- ・山梨大学工学部や産業技術短期大学校、甲府工業高校専攻科の教育との違いは、どこにあるのか。
- ・高等専門学校(工業系5年制)の教育との違いは、どこにあるのか。

6 「観光」に関する教育は、どうあるべきか？

(前提となる論点)

- ・県内企業(観光業)は、**大卒人材として**、業種固有の能力(ホテル経営、旅行企画等)を持った人材を求めているのか、あるいは、一般的な能力(マネジメント能力、データ分析等)を持った人材を求めているのか。
- ・毎年、どの程度の人数が必要なのか。